

第34回全日本マスターズハンドボール大会

7月11日(土)から7月12日(日)まで、第34回全日本マスターズハンドボール大会が、スカイホール豊田(豊田市総合体育館)及び豊田市松平体育館で行われた。今年度も全日本マスターズハンドボール連盟より本会への大会救護の依頼があり、本会から会員6名、準会員(勤務柔整師)5名が救護活動に参加した。また米田柔整専門学校から引率教員を含む6名が臨床実習として参加した。

例年、本大会では新鮮外傷が数多くみられるが、今年はアキレス腱断裂3名、肩関節脱臼1名、指骨開放性骨折疑い1名、鼻骨骨折疑い1名などが発生し、二日間で延べ102名の選手の手当てを実施した。また、学生への説明や指導も行い、大変多忙な救護活動となった。

今年度は昨年度より約100名多い745名の選手が大会に参加し、より一層大規模な大会となった。本会としても今年度より準会員制度が始まり、これまでに11名の準会員のうち約半数に参加・協力いただいたことで、救護活動の充実を図るとともに執務費の抑制にもつなげることができた。

(事業部長 齋藤 禎久)



日整「匠の技」技術講習会

8月23日(日)、愛整会館3階講堂にて「匠の技」技術講習会が『足周辺の骨折・顎関節脱臼』をテーマに行われ、24名の会員が参加した。

石川副会長の挨拶に続き、永田 和平会員、則竹 洋昭会員、山北 陽一会員の3名の指導者候補を講師に、参加者同士で一連の手順・操作を確認した。

講習会では前回と同様、先ず超音波観察装置の操作法と画像の見方について動画が流されたあと、三班に分かれて3人の講師が班ごとに1人付いて指導、説明を行い、参加者は実際に超音波観察装置に触れながら観察しあった。

続いて下腿骨の骨折の概要、整復法、固定法が標準テキストに沿った動画で紹介され、山北会員から整復法のデモが行われ、参加者らも二台のベッドで随時整復・固定を行い、術者と患者役がお互いに意見交をしながら手技の確認に取り組んだ。

続いて顎関節脱臼の概要、整復法、固定法が標準テキストに沿った動画で紹介され、指導者らによる整復・固定のデモも行われ、「あごバンテージ」の紹介と装着方法が行われた。

最後に質疑応答が行われ、有意義な講習会であった。

(広報部)

